

# 泉坂下遺跡第6次確認調査現地説明会を開催しました

泉坂下遺跡が平成29年度に国指定史跡に指定され、今後史跡として整備していくための基礎資料を得ることを目的として、6月～7月の2か月間調査を行いました。その成果を踏まえた現地説明会を実施し、県内外から約90人が参加。会場への誘導には、「泉坂下遺跡を守る会」の皆さんが活躍しました。



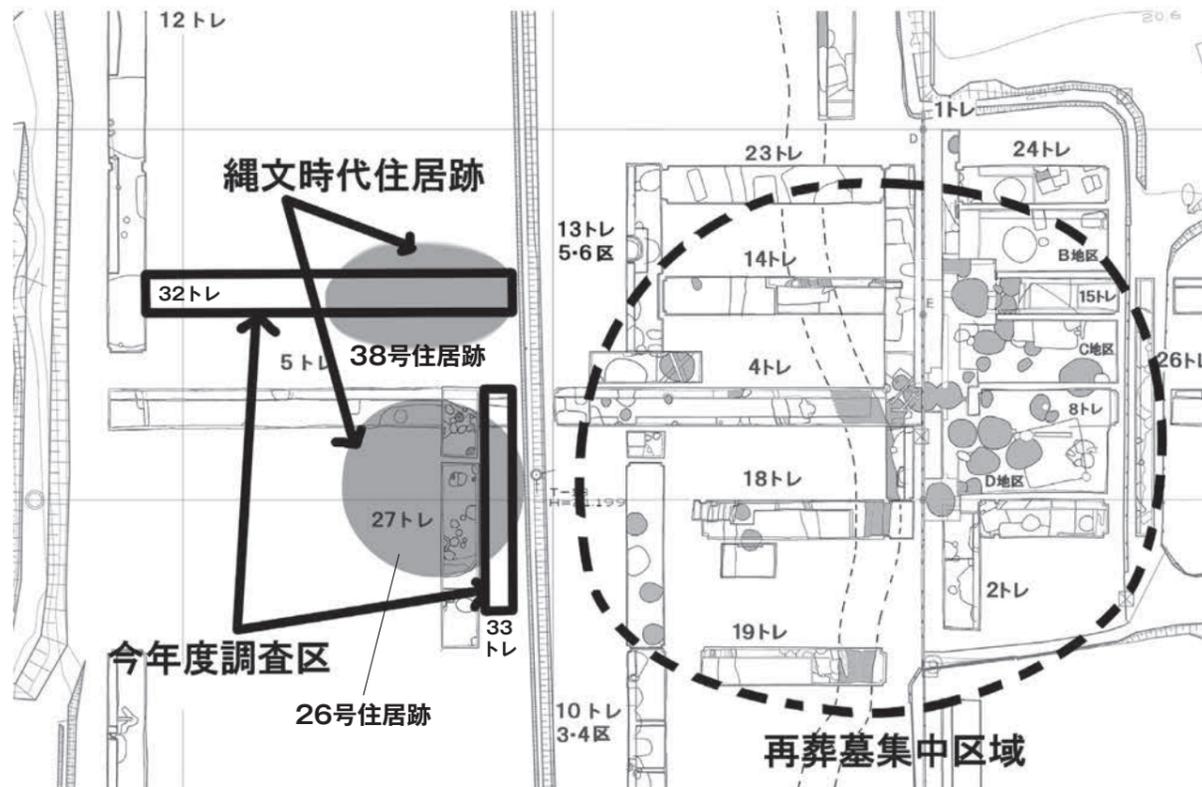
▲遺物の出土状況を公開



▲出土品を前に説明

泉坂下遺跡は、平成18年に弥生時代中期の再葬墓遺跡が発見され、そこから人面付壺形土器をはじめとする壺形土器など多くの遺物が出土しました。その後、教育委員会が行った4次にわたる確認調査により、再葬墓の分布範囲が判明し、平成29年、国史跡に指定されました。

昨年度実施した第5次と今回の調査では、弥生時代の再葬墓が造られる前、縄文時代晩期の住居跡の周辺を調査しています。縄文時代晩期の集落遺跡と弥生時代の再葬墓遺跡は不思議と同じ遺跡から見つかることが多く、泉坂下遺跡もその一つです。縄文時代から弥生時代にかけて、どのように遺跡が利用されていたのかを調査しました。



▲全て縄文時代晩期の土器や石器（28号住居跡）

調査区からは縄文時代晩期の遺物が大量に出土しました。これらは、縄文時代晩期（2800年前頃）につくられた竪穴式住居跡です。住居に人が住まなくなった後、住居を造るために掘られた穴に、壊れた土器や石器の失敗作などを捨てたために、数百年かけて遺物が堆積したものです。

多くは土器の破片で、美しい磨消縄文の文様で飾られた東北系の土器が多くありました。種類は日常的に煮炊きを使う大きな甕や、豪華な装飾のついた台付きの浅鉢、お酒などを注ぐための特別な注口土器（急須のような形）などさまざまです。石器も木の実をすり潰すための石や、メノウのやじり、祭祀に使ったと考えられている石剣・石棒なども見つかっています。

古いものから順に堆積しており、一番上の層、つまり一番新しい時代は弥生時代再葬墓の時代の土器もありました。



▲26号住居跡を掘り込んで造っていた弥生時代中期の土坑（左側2点が鉢、右側2点が蓋）

弥生時代中期の土坑も重複して発見されました。再葬墓遺跡が造られた時代のほんの少し後の時代のもので、これらの土器は、福島県域で主に出土する「龍門寺式土器」といわれる系統の土器で、これほど残りが良くきれいな形で見つかった例は県内では、ほとんどありません。

鉢や蓋が逆さまに置かれた状態から、壺形土器を骨壺として利用する再葬墓とは異なる形態のお墓と考えられます。亡くなった人を埋葬して土をかぶせた後に、土器を並べたのかもしれませんが。再葬墓を造る風習がなくなった頃のお墓である可能性があります。

今後も、地域にとって貴重な財産である泉坂下遺跡をより広く共有するべく、調査成果をまとめ、史跡整備に向けた事業を進めていきます。

引き続き、ご理解とご協力をお願いします。



▲弥生時代中期の土坑（上から3枚目の写真の鉢2点を取り上げて調査を進めたところ、さらに2点の土器が姿を現しました）

## ■問い合わせ■

文化スポーツ課 文化・スポーツグループ  
☎52-1111(内線343)